

③

①

騒音・粉じん等の対策

騒音・粉じん等の対策
防音パネル ○ 防音シート
防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲
※ 工事に必要な範囲

〔2.1.3〕

②

足場等

〔2.2.1〕〔表2.2.1〕
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
外部足場 ○ 設置する（範囲 ※ 工事に必要な範囲 ・ ） ・ 設置しない
防護シート ○ 設置する（範囲 ※ 工事に必要な範囲 ・ ） ・ 設置しない
内部足場 ○ 設置する（※ 脚立、足増板等 ・ ） ・ 設置しない
材料、撤去材等の運搬方法 ・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種
C種：利用可能なエレベーター（ ）
D種：利用可能な階段（ ）

③

既存部分の養生

〔2.3.1〕
養生方法等
・ 既存部分の養生方法 ※ ビニルシート、合板等による ・
・ 既存家具、既存設備等の養生方法 ※ ビニルシート等 ・
・ 既存ブラインド、カーテン等の養生方法 ※ ビニルシート等（取外し再取付を行う）
保管場所 ※ 構内既存施設内 ・
・ 固定された家具等（備品、机、ロッカー等）の移動 ※ 行う（図示）
既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれある場合は養生を行う。また、万一損傷等を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

4

仮設間仕切り

〔2.3.2〕
仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ※ 図示
仮設間仕切りの種別と材質等
・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示
A、B種の仕上げ材
※ せっこうボード（60・厚さ9.5mm） ・ 合板（普通合板 厚さ9mm）
A、B種の片面への塗装等 ※ 行わない ・ 行う（図示）
A種のグラスウールの充填
※ 行う（J I S A 6 3 0 1 グラスウール吸音材3 2 K厚5 0 mm）
・ 行わない
仮設扉の種別 ※ 木製（合板張り程度） ・

5

監督職員事務所等

〔2.4.1〕
・ 設ける m2程度 ※ 設けない
現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示による

⑥

工事用水

構内既存の施設 ・ 利用できる（※ 有償 ・ 無償） ※ 利用できない

⑦

工事用電力

構内既存の施設 ・ 利用できる（※ 有償 ・ 無償） ※ 利用できない

⑧

仮囲い等の安全施設

別紙設計図による

⑨

工事現場の表示

現場の見やすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する
※ 工事名等の表示板（900mm×600mm） ・ 工事概要等の説明看板（900mm×600mm）

⑩

交通誘導員

※ 配置する ○ 配置しない
※ 大型車両進入時（ ）人／日 ・ 常時配置（ ）人／日
・ （ ）作業期間（ ）人／日

③

防水改修工事

1 降雨等に対する養生方法
※ 改修標準仕様書3.1.3(5) (7)～(9)による。
・

2 既存防水の処理
既存保護層の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
既存防水層の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去
・ 行う（ ・ M4AS ・ M4ASI ・ M4C ・ M4DI ・ L4X）
・ 行わない

3 既存下地の処置
既存下地の補修箇所の形状、長さ、数量等 ※ 図示
POS工法及びPOSI工法（機械的固定工法）の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立上り部等の処置 ※ 改修標準仕様書3.2.6(4) (9) (a)①～③による ・
設備機器架台、配管受部、パラベット、貫通パイプ回り、手すり・丸壇の取付け部、塔屋出入口部等の欠損部及び防水層末端部の納まり部の処理
※ 図示。ただし、図示が無いものは監督職員と協議する

4 アスファルト防水
〔3.3.2～5〕
屋根保護防水
防水層の種別
工法 種別 施工箇所 断熱材 絶縁用シート 立上り部の保護
・ P 2 A ・ A－1 ※ A－2 ・ A－3
・ B－1 ※ B－2 ・ B－3
・ P 1 B ・ A I－1 ※ A I－2 ・ A I－3
・ P 2 A I ・ A I－1 ※ A I－2 ・ A I－3
・ P 1 B I ・ B I－1 ※ B I－2 ・ B I－3
・ T 1 B I
改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.3.3から表3.3.9による
平場の保護コンクリートの厚さこて仕上げ
こて仕上げ ※ 水下 80mm以上
床タイル張り ※ 水下 60mm以上
乾式保護材
原素系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレープ養生したものの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したものの。

（品質・性能）

分類・規格

寸法（mm）

寸法の許容差

出荷時の含水率

曲げ強さ・曲げモーメント（N・cm）

吸水率（％）

吸水による長さ変化率（％）

難燃性

耐凍融融解性能

耐衝撃性能

剛性（E×I）

（試験方法）

（1）寸法の測定方法

（2）曲げ強度試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。（原素系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。

（3）吸水率試験は、JIS A 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。

（4）難燃性試験は、JIS A 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。

（5）吸水による長さ変化率率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS K 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又はJIS K 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで顕湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さ測定し、それを基準（L1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこぼ立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（L2）を測る。
吸水による長さ変化率（ΔL）は、次式によって求める。
（ΔL）＝（L2－L1）／L1×100 ΔL：吸水による長さ変化率（％）
L1：乾燥時の標線間の長さ（mm） L2：吸水時の標線間の長さ（mm）

（6）耐凍融融解性能試験は、JIS A 5422「原素系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（原素系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）－20±3℃の気中で約2時間の凍結、20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。

（7）耐衝撃性能試験は、JIS A 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号S2対辺単純支持方法による。試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号（W1－1000）、質量1,000gとする。試験体を支持装置で支持して、堅固な床に水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水 防水層の種類

工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考

・ M4C ・ C-1 ※ C-2 ・ C-3 ・ C-4 ※ 製造所の指定による

・ M3D ・ D-1 ※ D-2 ・ D-3 ・ D-4 ※ 製造所の指定による

・ P0D1 ・ D1-1 ※ D1-2 ・ M4D1 ※ 製造所の指定による

JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材
（種類）※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
（厚さ）※25mm・50mm

5 改質アスファルトシート防水

断熱装置の種類 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様
断熱装置の設置数量 ※ アスファルトルーフィング類の製造所の仕様
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフトレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示
屋内防水
工法 種別 施工場所 保護層
・ P 1 E ・ E－1
・ P 2 E ※ E－2
E－1の場合で工程3を行う部位（※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位）
押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
屋上排水溝 ※ 図示
防水層の種類
工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考
・ M4S ・ AS-T1
・ AS-T2
・ AS-J2
・ M3AS ・ AS-T3
・ AS-T4
・ P0AS ・ AS-J1
・ AS-J3
・ M3ASI ・ ASI-T1
・ M4ASI ・ ASI-J1
・ P0ASI
JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材（種類）
※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号
（厚さ）※25mm・50mm
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※ 改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
断熱装置の種類 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様
断熱装置の設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の仕様
押え金物の材質、形状及び寸法
※ アルミニウム製 L-30×15×2.0mm程度
〔3.5.2～4〕〔表3.5.1～3〕
防水層の種類
工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考
・ P0S ・ S-F1
・ S4S
・ S-F2
・ S-M1
・ S-M2
・ S-M3
・ S3S ・ S-F1
・ S-F2
・ S-M1
・ S-M2
・ S-M3
・ P0S1 ・ SI-F1
・ S3S1
・ S4S1
・ M4S1
・ SI-F2
・ SI-M1
（材質）※改修標準仕様書3.5.2 (a) (3) (ii)による
（厚さ）※25mm・50mm
（材質）※改修標準仕様書3.5.2 (c) (3) (i)による
（厚さ）※25mm・50mm
S1－F1、S1－F2、S1－M1及びS1－M2における防湿用フィルム
※ 設けない ・ 設ける
S1－M2の絶縁用シートの材質
※ 発泡ポリエチレンシート
S－M2及びS1－M2の立上り部の工法
※ 接着工法（立上りが面のシートの厚さ ※ 1.5mm ・ ） ・ 機械的固定工法
屋内防水
防水層の種類
種別 施工箇所 平場のモルタル塗り 立上り部の保護モルタルの塗厚
・ S－C1 ・ 床塗り
・ 下地モルタル塗り ※ 7mm以下

7 塗膜防水

〔3.6.2、3〕
防水層の種類
工法 種別 施工箇所 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考
・ P 0 X ※ X－1
・ X－2 ※ 2成分形アクリルウレタン樹脂系
・ ふっ素樹脂系
・ アクリルシリコン樹脂系 ※ 製造所の指定による
・ P 1 Y ※ Y－2
・ P 2 Y ※ Y－2
X－1（絶縁工法）の断熱装置の種類 ※ 主材料の製造所の仕様
X－1（絶縁工法）の断熱装置の設置数量 ※ 主材料の製造所の仕様
Y－1、Y－2の工程数及び各工程の使用量
※ 改修標準仕様書表3.6.2による
主材料の製造所の仕様
〔3.7.2、3、3.7.7〕
シーリング改修工法の種類
・ シーリング充填工法
○ シーリング再充填工法
・ 抵觸シーリング再充填工法
・ ブリッジ工法
・ ボンドブレイカー張り ・ 適用する ・ 適用しない
・ エッジング材張り ・ 適用する ・ 適用しない
シーリング材の種類、施工箇所
下表以外は、改修標準仕様書3.7.1による
施工箇所 シーリング材の種類（記号）
外壁目地 PU－2
建具廻り・防水端部 MS－2
シーリング材表面に仕上塗料、塗装等 ※ 行う ・ 行わない
シーリング材の目地寸法 ※ 改修標準仕様書3.7.3(1)～(2)による
接着試験 ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験
〔3.8.2、3〕
といの材質 ・ 配管用鋼管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管
ルーフトレン
種別 施工箇所
○ ろく度補修（○ 縦型 ・ 横型）
・ バルコニー用
・ バルコニー中継用
ルーフトレンの材質：
※ 本体等の鋼鉄品の種類は、JIS G 5501（わずき鋼鉄品）によるFG150又はFG200とし、張掛け幅は100mm以上とする。
とい受け金物及び足金物の材質、形状及び取付け間隔
※ 改修標準仕様書表3.8.2により、溶融亜鉛めっきを行ったもの
多雪地域 ・ 適用する ・ 適用しない
防露材のホルムデヒド放散量
※ 規制対象外
鋼管製といの防露巻き ・ 適用する（工法：※ 標準仕様書表13.5.4による ・ ）
・ 適用しない
既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※ 図示
鋼管製といの防露巻き ※ 改修標準仕様書表3.8.4による
たてどい受金物の取付け ※ 図示
〔3.9.2、3〕
種類 ・ オープン形式（ ・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形 ）
・ 板材折曲げ形（ ・ オープン形式 ・ シール形式）
本体幅（ ）mm 板厚（ ）mm
表面処理 種別（ ）種
色合等 ・ 標準色（ ） ・ 特注色（ ）
既存笠木等の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
下地補修の工法 ※ 図示 ・
板材折曲げ形の笠木の取付け方法 ※ 図示 ・
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法

9 とい

〔3.5.2～4〕〔表3.5.1～3〕
防水層の種類
工法 種別 施工箇所 断熱材 仕上塗料 高日射反射率の防水の適用 備考
・ P0S ・ S-F1
・ S4S
・ S-F2
・ S-M1
・ S-M2
・ S-M3
・ S3S ・ S-F1
・ S-F2
・ S-M1
・ S-M2
・ S-M3
・ P0S1 ・ SI-F1
・ S3S1
・ S4S1
・ M4S1
・ SI-F2
・ SI-M1
（材質）※改修標準仕様書3.5.2 (a) (3) (ii)による
（厚さ）※25mm・50mm
（材質）※改修標準仕様書3.5.2 (c) (3) (i)による
（厚さ）※25mm・50mm
S1－F1、S1－F2、S1－M1及びS1－M2における防湿用フィルム
※ 設けない ・ 設ける
S1－M2の絶縁用シートの材質
※ 発泡ポリエチレンシート
S－M2及びS1－M2の立上り部の工法
※ 接着工法（立上りが面のシートの厚さ ※ 1.5mm ・ ） ・ 機械的固定工法
屋内防水
防水層の種類
種別 施工箇所 平場のモルタル塗り 立上り部の保護モルタルの塗厚
・ S－C1 ・ 床塗り
・ 下地モルタル塗り ※ 7mm以下

10 アルミニウム製笠木

〔3.9.2、3〕
種類 ・ オープン形式（ ・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形 ）
・ 板材折曲げ形（ ・ オープン形式 ・ シール形式）
本体幅（ ）mm 板厚（ ）mm
表面処理 種別（ ）種
色合等 ・ 標準色（ ） ・ 特注色（ ）
既存笠木等の撤去 ・ 行う（範囲 ※ 図示 ・ ）
・ 行わない
下地補修の工法 ※ 図示 ・
板材折曲げ形の笠木の取付け方法 ※ 図示 ・
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
防水改修フロー及び数量
・ 既存保護層の補修及び処置
防水面調査（施工数量調査）
ひび割れ部補修 欠損部改修 浮き部補修 ぜい弱部補修 既存目地欠損部補修 既存目地欠損部補修（脱気利用する場合）
アスファルト防水工事用シール材（幅2mm未満） Uカットのうえポリウレタン系シーリング材（幅2mm以上） ポリマーセメントモルタル補修 ポリマーセメントモルタル補修 撤去のうえ、ポリマーセメントモルタル補修 ケレン等のうえ、ポリマーセメンペースト補修 アスファルト防水工事用シール材 ポリマーセメントモルタル補修 既存目地撤去のうえポリウレタン系シーリング材
0m 0m 0m 0m2 0m2 0m2 0m 0m 0m
シーリング改修
シーリング再充填工法
mm×mm 0m mm×mm 0m
図面番号
2

令和8年度

東城市民住宅2号棟外壁改修工事

工事名称

図面名称

建築改修工事特記仕様書(2)

縮尺

NS

4
1
1

外壁改修工事（共通事項）

ポリマーセメントモルタル

2
ポリマーセメントスラリー

3
吸水調整材

4
既製調合モルタル

(品質・性能)

[4. 2. 2]

項目品質・性能
だれ下がり量（mm）5以下
表面の状態ひび割れの発生が無いこと。
曲げ強さ（N/mm2）6.0以上
圧縮強さ（N/mm2）20.0以上
接着強さ（N/mm2）1.0以上
標準条件
特殊条件湿度時0.8以上
低湿時0.5以上
透水性裏面のぬれ、水滴の付着が無いこと。
その他1) 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
2) 高分子エマルションは、常温常湿において製造後6か月保存しても、変質しないこと。

(品質・性能)[4. 2. 2]
広がり速度長さ変化率引張強度曲げ性能吸水性耐久性
(cm/s)(%)
(N/mm2)(N/mm2)(%)(N/mm2)
3以上3以下0.5以上5.0以上15以下5.0以上
保水係数0.35～0.55
粘潤係数0.50～1.00
改修標準仕様書表4.2.2による
モルタル地下地としたタイル工事に使用する弾付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
(品質・性能)
項目品質・性能項目品質・性能
保水率70.0％以上長さ変化率0.2％以下
単位容積質量1.80kg/L以上曲げ強さ0.4N/mm2以上
接着強さ標準時0.6N/mm2以上
温冷繰り返し後0.4N/mm2以上
(試験方法)
(1) 試料の調製
製造業者の定める、正味重量と標準繰り上がり量より換算して、所定量の試料を繰り上げるのに要する材料と繰り混ぜ水を計算して用意する。

繰りばちに用意した水を入れ、攪拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間繰り混ぜて試料とする。
(2) 保水率の試験方法
JIS R3202「フロートガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS P3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5Aろ紙（直径110cm）のをせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、(1) で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さsノギスを用いて、1mmの単位まで測定する。
試験は3回実施し、その平均値を用いて式次により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100（注）50：リング型わくの内径 mm
(3) 単位容積質量の試験方法
JIS A 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
(4) 接着強さ（標準時）の試験方法
イ) 適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のり寸法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS A6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接合し、引張試験機を用いて接着強さをエポキシ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。（全てφ10.6N/mm2以上を確保していること）
ロ) 適用タイルが「小口タイル・二丁掛タイル」の場合
（試験体の作製）JIS A5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板 N-300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（1）で調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS A 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80％以上の状態で湿気養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
(5) 接着強さ（湿冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（4）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（湿冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11湿冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸させた後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加熱し、この24時間を1サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び剥れの有無を目視によって調べる。
（湿冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々湿冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てφ0.4N/mm2以上を確保していること）
(6) 長さ変化率の試験方法
JIS A6203「セメント混和用ポリマードисパージョン及び再乳化粉形末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
(7) 曲げ強さの試験方法
JIS A6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さに準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10％とする。

4
2

外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）

ひび割れ部改修工事

2
欠損部改修工事

1
ひび割れ部改修工事

2
欠損部改修工事

3
浮き部改修工事

4
外壁複合改修構工事

※ 樹脂注入工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 3. 5]
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 ※40 ・
0.3以上0.5未満 200～300 ※40 ・
0.5以上1.0未満 ※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130 ・
エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形
注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う
コア採取りの場合の数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個
コア採取りの場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ リカットシート材充填工法
・ シーリング材
充填材料 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
・ パチ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂
※ 充填工法 [4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 3. 7]
・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル ・

※ モルタルを撤去しないで改修 [4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 4. 5～7]
※ 樹脂注入工法
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 ※40 ・
0.3以上0.5未満 200～300 ※40 ・
0.5以上1.0未満 ※70 ・
・ 手動式エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 50～100 ※40 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.3以上0.5未満 100～200 ※70 ・
・ 機械式エポキシ樹脂注入工法 0.5以上1.0未満 150～250 ※130 ・
エポキシ樹脂 ※ 低粘度形 ・ 中粘度形
注入状況の確認方法 ※ 注入量により確認 ・ コアの採取を行う
コア採取りの場合の数 ※ 長さ500mmごと及びその端数につき1個
コア採取りの場合の採取部の補修方法 ※ポリマーセメントモルタル充填 ・ 図示
・ リカットシート材充填工法
・ シーリング材
充填材料の種類 ※ 1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ・
シーリング材の上にポリマーセメントモルタルの充填 ※ 行う ・ 行わない
※ 可とう性エポキシ樹脂
・ シール工法
※ パチ状エポキシ樹脂 ・ 可とう性エポキシ樹脂
・ モルタルを撤去して改修
モルタル撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタル撤去後のモルタル欠損部の補修は、2 欠損部改修工法による
※ 充填工法（欠損部の面積が0.25m2/箇所程度以下の場合） [4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 4. 8、9]
充填材の種類 ※ ポリマーセメントモルタル ・ エポキシ樹脂モルタル
・ モルタル代替え工法
モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
既製目地材 ・ 使用する（形状）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ・
※ モルタルを撤去しないで改修 [4. 1. 4] [4. 2. 2][4. 4. 10～15]
・ アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
※ 注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法
・ 注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法
アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工をしたもの
注入口付アンカーピンの材質 ※ ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径6mm
・ モルタルを撤去して改修
モルタルの材料 ※ 現場調合材料 ・ 既調合材料
・ 充填工法 ・ エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル
・ モルタル代替え工法 既製目地材 ・ 使用する（形状）
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※ 図示 ・
平成7年度建設省告示第1860号による「外壁複合改修構工法の開発」において、建設大臣の技術評価を取得した工法とする

4
4

外壁改修工事（タイル張り仕上げ外壁）

タイル張替え工法
材料

2
ひび割れ部改修工事

3
欠損部改修工事

4
浮き部改修工事

5
目地改修工事

6
外壁複合改修構工事

タイル部分張替え工法及びタイル張替え工法用接着剤の種類 [4. 2. 2]
・ ポリマーセメントモルタル
・ JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系
・ JIS A 5557による一液反応硬化形ウレタン樹脂系
タイルの形状、寸法等
施工 形状/寸法 再生材料 吸水率による区分 うわぐすり 役物 色 耐凍害性 耐滑 備考
箇所（mm） の適用 I類 II類 III類 IV類 凹やう 有 無 標準 特注 有 無 り性
耐滑り性：JIS A 1509-12（セラミックタイル試験方法―第12部：耐滑り性試験方法）で規定するC.S.R値は0.4～1.0とする。
役物の使用箇所
内装 出隅 天端
外装 出隅、窓台、マグサ（標準一体成型品以外は接着成型品とする）
※ タイルを撤去して改修
下地モルタルまで撤去後のコンクリート部分の改修は、4-2 外壁改修工事（コンクリート打放し仕上げ外壁）による
モルタルを存置した場合のモルタル部分の改修は、4-3 外壁改修工事（モルタル塗仕上げ外壁）による
タイル撤去後のタイル欠損部の補修は、3 欠損部改修工法による
・ タイルを撤去しないで改修
※ 樹脂注入工法
工法の種類 ひび割れ幅（mm） 注入口間隔（mm） 注入量（mL/m）
※ 自動式低圧エポキシ樹脂注入工法 0.2以上0.3未満 ※40 ・
0

[illegible]

9

床点検口

材種

寸法
(mm)

形式

備考

・ アルミニウム製
・ ステンレス製
・ 鋼製

・ 450×450
※ 600×600
・

・ 一般形
・ 密閉形

・ 屋内外用
・ 屋内用

・ 鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとす。
(品質・性能)

部材名

材質

屋内外用

屋内用

受枠材 蓋枠材

アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材

JIS H 4100のA6063S -T5
(表面処理) JIS H 8602のB種又はJIS H 8601のAA15

ステンレス製

JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1
(表面処理) HL又は2B仕上げ程度

JIS G 4305のSUS430
(表面処理) HL又は2B仕上げ程度

鋼製

—

標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの

二重蓋の中蓋

鋼鉄
その他

JIS G 5501のFC150、FC200
塩化ビニル樹脂製等

目地材

黄銅
ステンレス

JIS H 3100 のC2600、C2720、C2801
JIS H 3250 のC3602、C3604
JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
JIS G 4308のSUS304

底板材コーナー
ピース底板補強材

ステンレス鋼板
アルミニウム板
鋼材

JIS G 4305のSUS304、SUS430J1L、SUS443J1
JIS G 4308のSUS304
JIS H 4000(A1100P H24)
表面処理：陽極酸化塗装複合被膜 JIS H 8601(AA15)
JIS H 8602(B)

JIS G 4305のSUS430
—
鋼製又はJIS G 3313にメラミン樹脂焼付塗装若しくは、標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2のさび止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの

パッキン材

塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等枠の材質、形状に適した弾力性、密着性、気密性を有するもの

アンカー材
取手

鋼製に電気亜鉛めっき又は防錆塗料を行ったもの
黄銅・錳鉄製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金
錳鉄製、ステンレス・錳鋼品、ステンレス製等
ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材などで被覆した、合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じないものとする

鍵

黄銅製、ステンレス製、亜鉛合金製とする
施設・開設は、鍵又は開閉用ハンドル式とする

蓋の耐荷重性能

蓋中央部が荷重値P=1,000Nにおいて残留たわみが点検口の有孔径の0.08%以内であること。
受け枠、蓋その他の使用上支障がないこと。
破壊荷重は、荷重値のPnの2倍以上であること。

受け枠寸法の許容差 ±0.5mm以下
蓋付寸法の許容差 ±0.5mm以下
受け枠と蓋枠のクリアランス 片側2.0mm以内
(試験方法)
耐荷重試験
試験体は、張物用とし、600mm角程度、枠見込みは、40mm以下とする。
試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部にφ50mmの加圧板を設置し、加圧する。
本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を3回繰り返した後の、その後試験体が破壊する(終局荷重)まで加圧する。
測定は、蓋中央部にかかる加圧を200N増す毎にたわみと受け枠の変形その他の異常について1,000Nまで3回繰り返す。

材質

表面仕上げ

直径 (mm)

取付箇所

・ 集成材

・ クリアラッカー

・ 35 ・ 45

・ ステンレスパイプ

・ HL程度

・

・ 鋼製パイプ

・ S O P ・ E P - G

・ ビニル製ハンドレール

10

手すり

11

天井見切り縁等

12

視覚障害者用床
タイル
(視覚障害者誘導用ブロック)

13

鉄筋

14

溶接金網

15

鉄筋の継手及び定着

16

コンクリートの気乾
単位容積質量による
種類及び強度等

17

セメント

18

型枠

19

無筋コンクリート

20

床コンクリート
直均し仕上げ

21

あと施工アンカー

22

トイレブース

23

バグ77アンテナ移設復旧

24

T Vアンテナ移設復旧

25

空調室外機上げ下げ

26

避難ステッカー

27

階段段鼻タイル

28

養生

29

その他

※ 工事中足場等に設置し、受信できる状態にすること。
※ 工事中足場等に設置し、受信できる状態にすること。
※ 室外機の上げ下げを行うこと。
※ 避難ステッカー貼りを行うこと。(撤去・新設)
※ 段鼻タイル貼りを行うこと。(端部段鼻ノンスリップ 200x100(垂付) 色柄は既存に準ずる)
※ サンダー工法等、粉塵等が発生する工事を施工する前に、入居者の協力を得て、住戸内部からも養生を行い、室内に粉塵等が入ることがないように対策を講じること。
又階段室は集じん装置付サンダーによる施工とする。
※ 不要な金物等は撤去のこと。
※ 取外し可能な面格子等は取外し、落下防止措置を講じた上で、各種工事を行うこと。
※ 玄関建具の塗装はF☆☆☆☆同等とする。

23

バグ77アンテナ移設復旧

24

T Vアンテナ移設復旧

25

空調室外機上げ下げ

26

避難ステッカー

27

階段段鼻タイル

28

養生

29

その他

※ 工事中足場等に設置し、受信できる状態にすること。
※ 工事中足場等に設置し、受信できる状態にすること。
※ 室外機の上げ下げを行うこと。
※ 避難ステッカー貼りを行うこと。(撤去・新設)
※ 段鼻タイル貼りを行うこと。(端部段鼻ノンスリップ 200x100(垂付) 色柄は既存に準ずる)
※ サンダー工法等、粉塵等が発生する工事を施工する前に、入居者の協力を得て、住戸内部からも養生を行い、室内に粉塵等が入ることがないように対策を講じること。
又階段室は集じん装置付サンダーによる施工とする。
※ 不要な金物等は撤去のこと。
※ 取外し可能な面格子等は取外し、落下防止措置を講じた上で、各種工事を行うこと。
※ 玄関建具の塗装はF☆☆☆☆同等とする。

23

バグ77アンテナ移設復旧

24

T Vアンテナ移設復旧

25

空調室外機上げ下げ

26

避難ステッカー

27

階段段鼻タイル

28

養生

29

その他

※ 工事中足場等に設置し、受信できる状態にすること。
※ 工事中足場等に設置し、受信できる状態にすること。
※ 室外機の上げ下げを行うこと。
※ 避難ステッカー貼りを行うこと。(撤去・新設)
※ 段鼻タイル貼りを行うこと。(端部段鼻ノンスリップ 200x100(垂付) 色柄は既存に準ずる)
※ サンダー工法等、粉塵等が発生する工事を施工する前に、入居者の協力を得て、住戸内部からも養生を行い、室内に粉塵等が入ることがないように対策を講じること。
又階段室は集じん装置付サンダーによる施工とする。
※ 不要な金物等は撤去のこと。
※ 取外し可能な面格子等は取外し、落下防止措置を講じた上で、各種工事を行うこと。
※ 玄関建具の塗装はF☆☆☆☆同等とする。

庄原市
SHOBARA CITY

令和8年度

工事名称

東城市民住宅2号棟外壁改修工事

図面名称

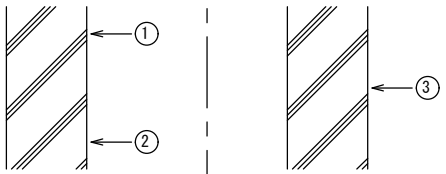
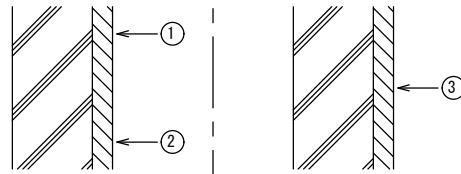
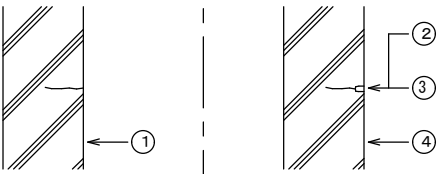
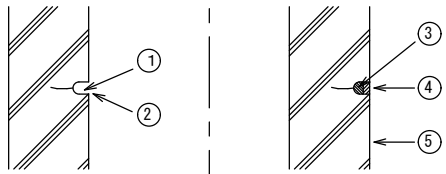
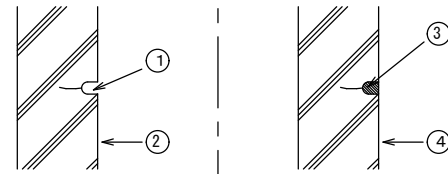
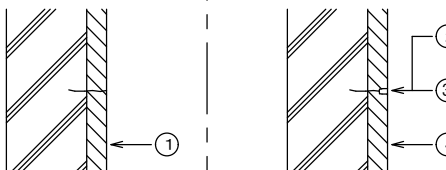
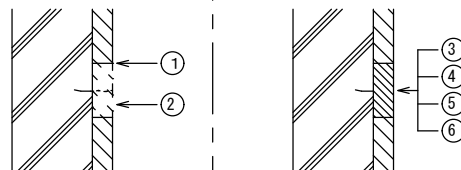
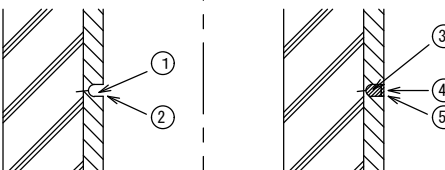
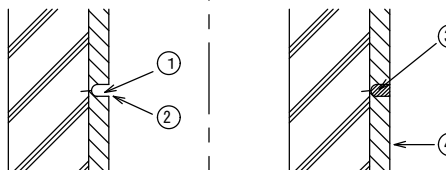
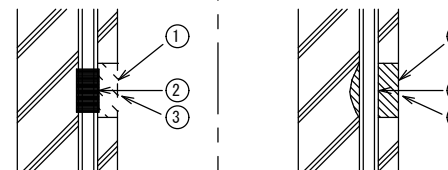
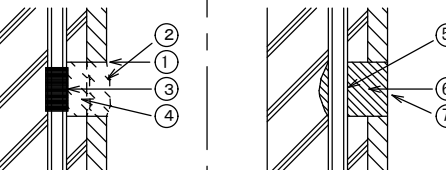
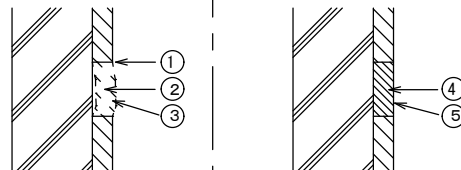
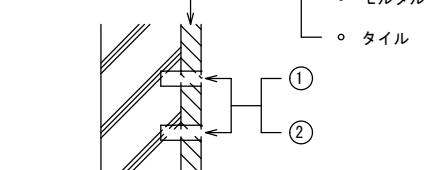
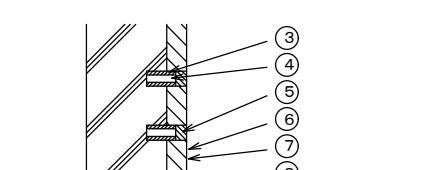
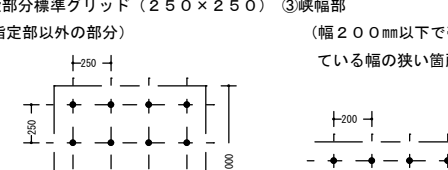
建築改修工事特記仕様書(5)

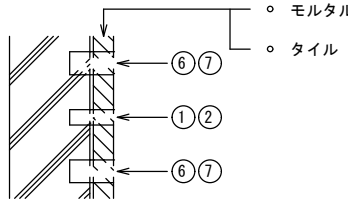
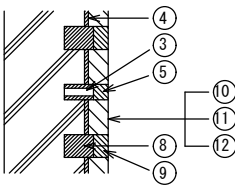
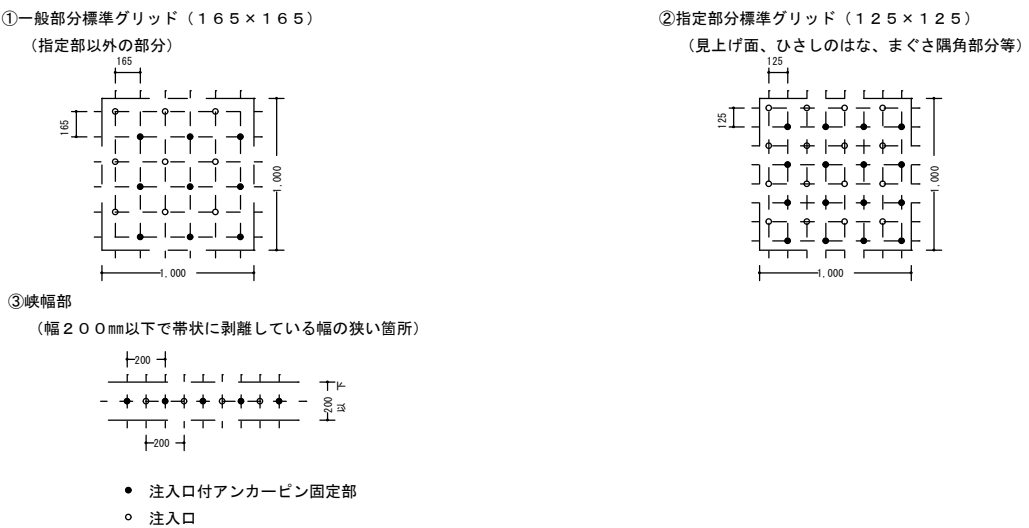
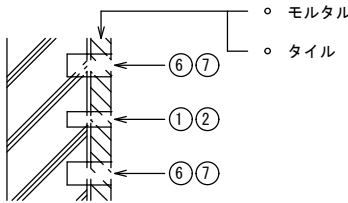
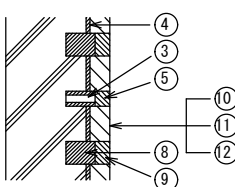
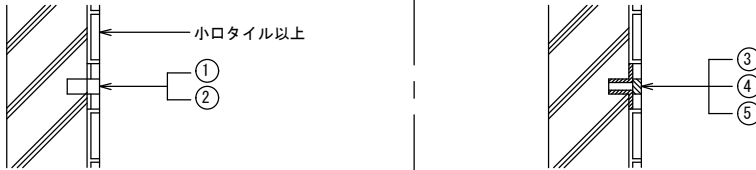
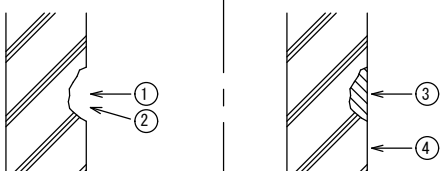
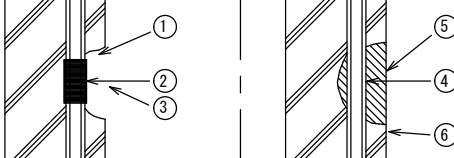
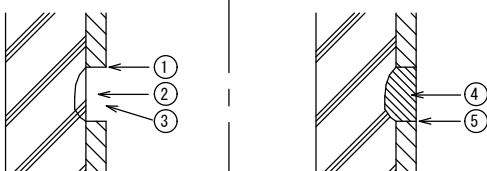
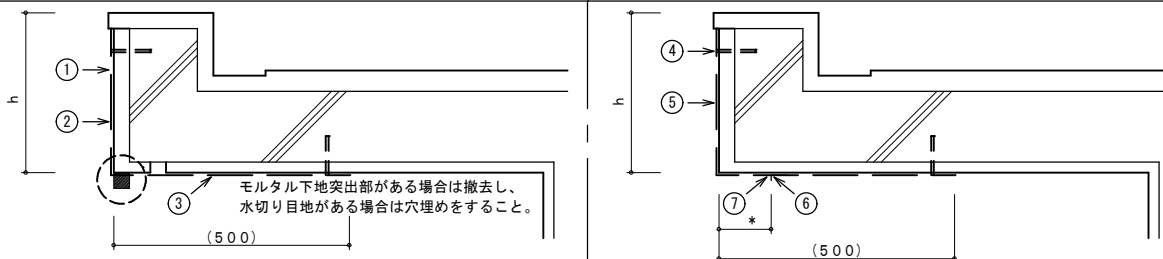
縮尺

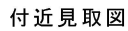
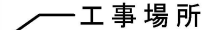
NS

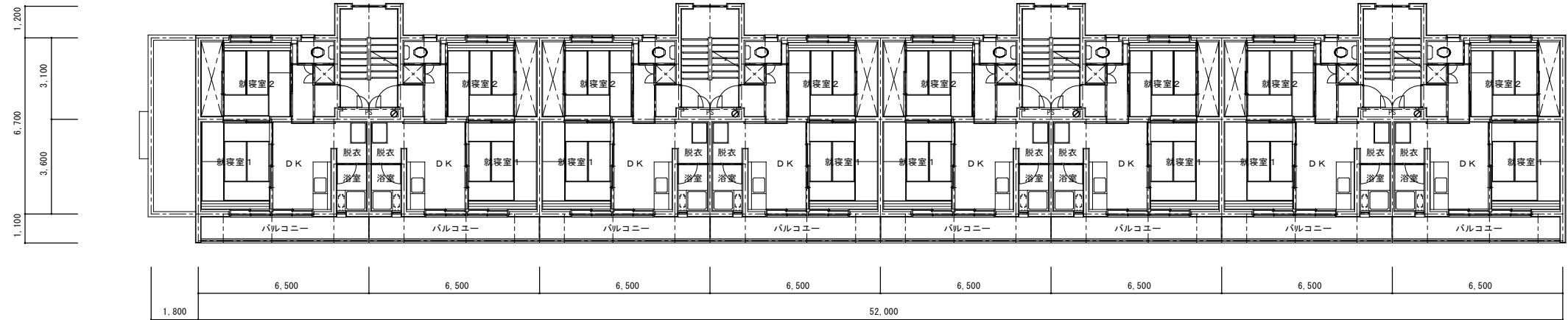
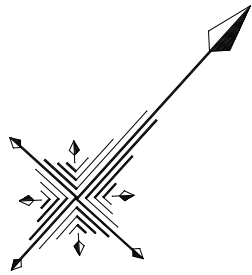
図面番号

5

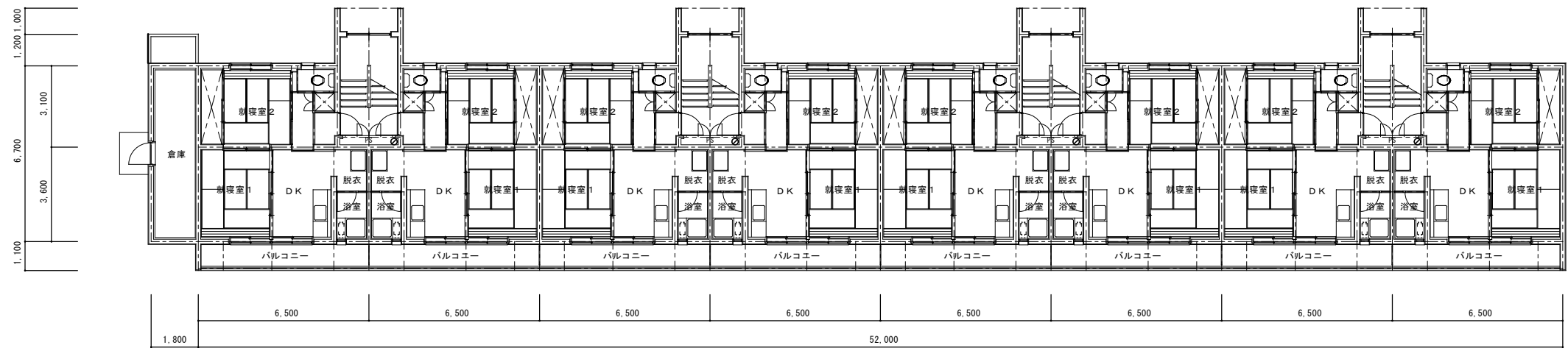
名 称		A 表面劣化部処理		B ひび割れ部処理			
記号・仕様		A－1 打放し面表面劣化部処理〔サンダー工法〕		A－2 モルタル面表面劣化部処理〔サンダー工法〕		B－1 打放し面樹脂注入工法〔標仕4. 3. 4〕 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm	
改修前	改修後						
							
工 程		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度）		①既存仕上げ材及び脆弱層サンダーケレン（＊全面・部分） ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度）		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A－1工法を行う場合は、①、④の工程はA－1工法に含む。	
名 称		B ひび割れ部処理				C 錆鉄筋部処理	
記号・仕様		B－4 モルタル面樹脂注入工法〔共仕4. 4. 5〕 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm		B－5 モルタル面躯体部樹脂注入工法〔標仕4. 4. 5〕 ひび割れ幅 0. 2～1. 0mm		B－6 モルタル面Uカットシール材充てん工法 ひび割れ幅 1. 0mm以上	
改修前	改修後						
							
工 程		①サンダーケレン ②ひび割れ部シール ③エポキシ樹脂注入 ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A－2工法を行う場合は、①、④の工程はA－2工法に含む。 参考数量： ひび割れ幅 0. 2～0. 5mm（ ） ひび割れ幅 0. 5～1. 0mm（ ） （ ）内は挙動ひび割れ数量を示す		①ひび割れ周囲モルタルカッター切り ②モルタル除去 ③ひび割れ部シール ④エポキシ樹脂注入 ⑤埋戻し ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A－2工法を行う場合は、⑥の工程はA－2工法に含む。		①ひび割れ部Uカット ②高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ③シーリング材打設 ④Uカット部埋戻し（ポリマーセメントモルタル） ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A－2工法を行う場合は、②⑤の工程はA－2工法に含む。	
名 称		C 錆鉄筋部処理		D 浮き部処理			
記号・仕様		C－2 モルタル面錆鉄筋部処理		D－1 モルタル面はつり		D－2 モルタル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法〔標仕4. 4. 10〕 D－2' タイル面アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法〔標仕4. 5. 9〕	
改修前	改修後						
							
工 程		①カッター縁切り ②浮き部はつり ③錆落とし ④高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ⑤防錆処理 ⑥はつり部埋戻し整形 ⑦セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A－2工法を行う場合は、④⑦の工程はA－2工法に含む。		①カッター縁切り ②浮き部はつり ③高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ④はつり部埋戻し整形 ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A－2工法を行う場合は、③⑤の工程はA－2工法に含む。		①穿孔 ②孔内エアークリーニング ③エポキシ樹脂注入 ④ステンレスピン挿入 一般部 指定部 一般部 指定部 一般部 指定部 一般部 指定部 ⑤穿孔跡埋戻し〔パテ状エポキシ樹脂〕 ⑥サンダーケレン ⑦高圧水洗浄（150～200kg／cm ² ） ⑧セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A－2工法を行う場合は、⑥、⑦、⑧の工程はA－2工法に含む。	
						ヶ所	

名 称		D 浮き部処理											
記号・仕様		D-6 モルタル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 4. 14]		D-6' タイル面注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法 [標仕4. 5. 13]									
改修前	改修後												
		①ピン固定部穿孔 一般部 指定部 ②孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ③ステンレスピン（注入口付）挿入 一般部 指定部 ④エポキシ樹脂注入 一般部 指定部				⑤穿孔跡埋戻し [エポキシパテ] 一般部 指定部 ⑥注入口穿孔 一般部 指定部 ⑦孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ⑧エポキシ樹脂注入 一般部 指定部				⑨穿孔跡埋戻し [エポキシパテ] 一般部 指定部 ⑩サンダーケレン ⑪高圧水洗浄（150～200kg/cm²） ⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：			
名 称		D 浮き部処理											
記号・仕様		D-7 モルタル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 4. 15]		D-7' タイル面注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法 [標仕4. 5. 14]		※標準グリッド等は、D-6、D-6' と同じ		D-8 タイル面注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法（小口タイル以上） [標仕4. 5. 15]					
改修前	改修後												
		①ピン固定部穿孔 一般部 指定部 ②孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ③ステンレスピン（注入口付）挿入 一般部 指定部 ④ポリマーセメントスラリー注入 一般部 指定部 ⑤穿孔跡埋戻し [※ポリマーセメントスラリー] 一般部 指定部				⑥注入口穿孔 一般部 指定部 ⑦孔内エアークリーニング 一般部 指定部 ⑧ポリマーセメントスラリー注入 一般部 指定部 ⑨穿孔跡埋戻し [※ポリマーセメントスラリー] 一般部 指定部 ⑩サンダーケレン ⑪高圧水洗浄（150～200kg/cm²）				⑫セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-2工法を行う場合、⑩、⑪、⑫の工程はA-2工法に含む 参考数量：①一般部分： ②指定部分： ③狭幅部：			
名 称		E 欠損部処理											
記号・仕様		E-1 打放し面充填工法 [標仕4. 3. 7]		E-2 打放し面欠損部処理 [標仕4. 3. 3]		E-3 モルタル面欠損部処理 [標仕4. 4. 3]		F 外壁複合改修工法					
改修前	改修後												
		①欠損部はつり等での整形 ②高圧水洗浄（150～200kg/cm²） ③欠損はつり部埋戻し [※※ポリマーセメントスラリー・エポキシ樹脂モルタル] ④セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-1工法を行う場合、②、④の工程はA-1工法に含む		①欠損部・錆鉄筋周辺はつり等での整形 ②錆落とし ③高圧水洗浄（150～200kg/cm²） ④防錆処理 ⑤欠損はつり部埋戻し [※※ポリマーセメントスラリー・エポキシ樹脂モルタル] ⑥セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） ※A-1工法を行う場合、③、⑥の工程はA-1工法に含む		①カッター縁切り ②欠損部はつり等での整形 ③高圧水洗浄（150～200kg/cm²） ④欠損はつり部埋戻し [※※ポリマーセメントスラリー・エポキシ樹脂モルタル] ⑤セメント系下地調整材コテ塗り（1～2mm程度） （鉄筋の露出部がある場合はE-2による） ※A-2工法を行う場合、③、⑤の工程はA-2工法に含む		下地補修後 ①プライマー下塗り ②ポリマーペースト中塗り ③三軸ネット張り ④ワッシャー付アンカーピン打ち込み ⑤ポリマーペースト中塗り ⑥アルミ水切り取付け（L-30×15×2.0 ステンレスビス止@450） ⑦シーリング打設（MS-2）					
		 庄 原 市 SHIONARA CITY				令和 8 年度		工事名称 東城市民住宅 2 号棟外壁改修工事		図面名称 外壁改修工事特記仕様書（2）		図面番号 7	
										縮 尺		NS	



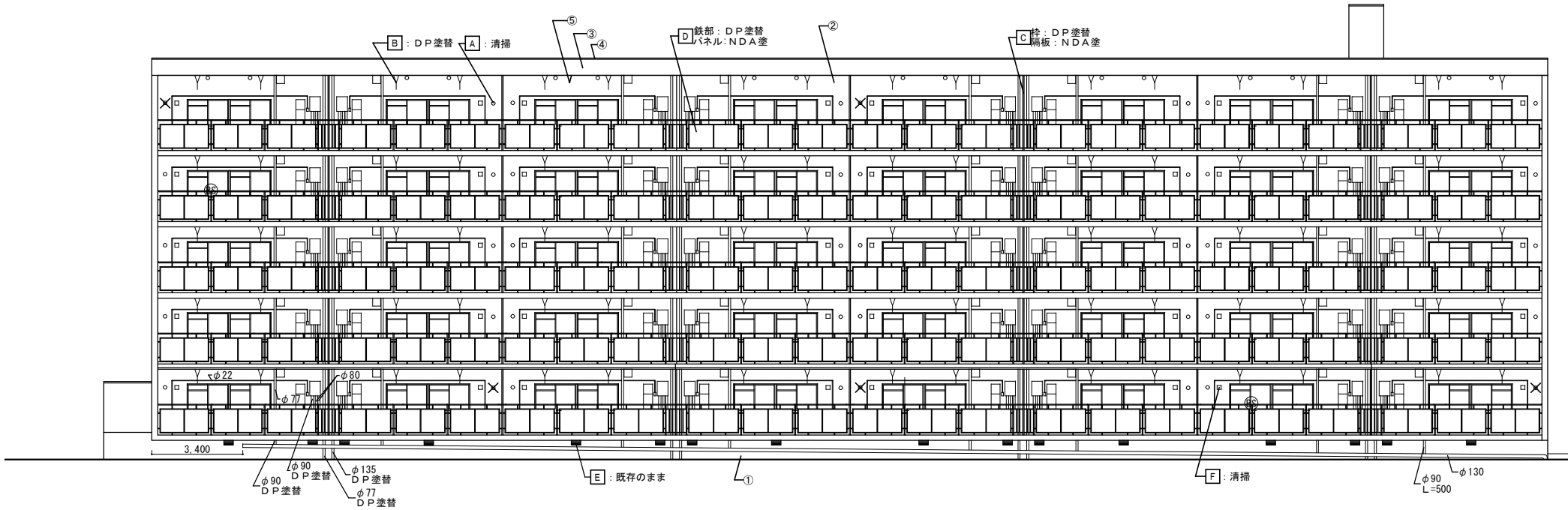


2号棟2階～5階平面図 S=1/150

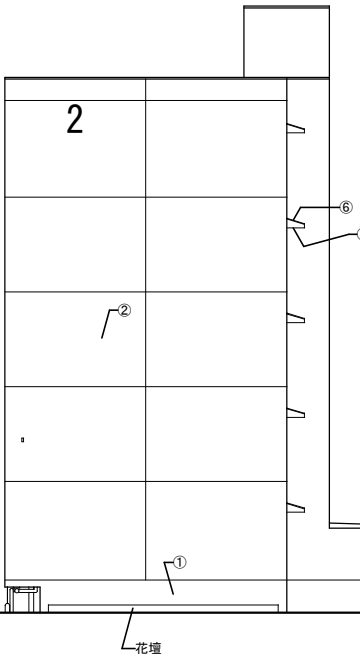


2号棟1階平面図 S=1/150

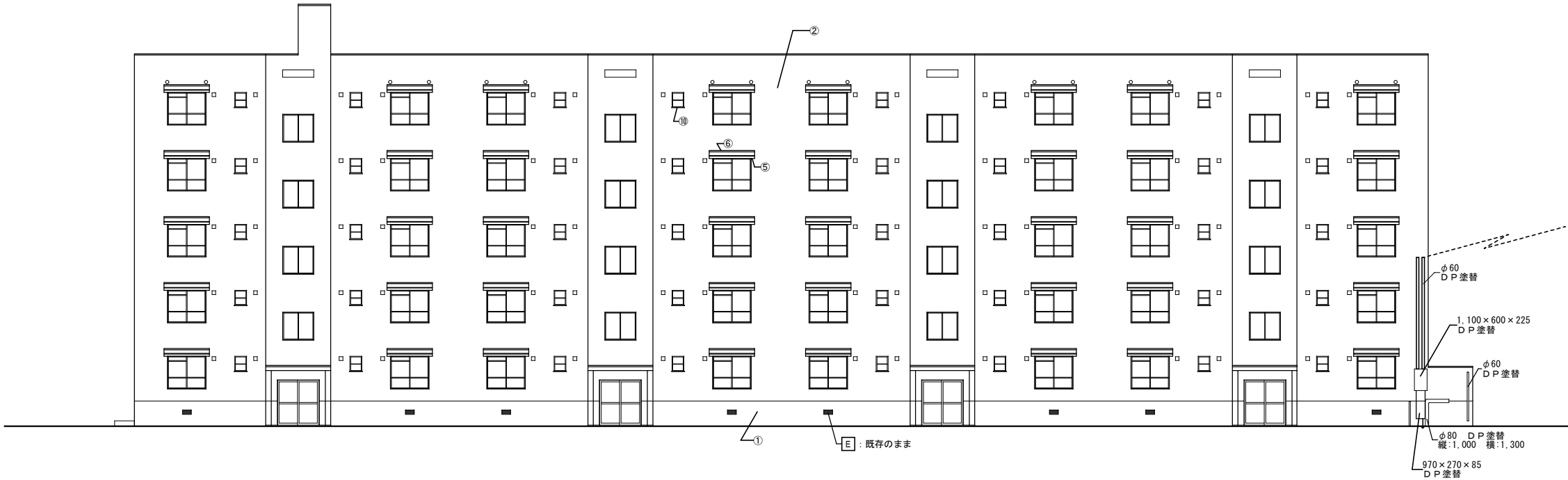
A	クーラースリーブ	B	物干金物	C	隔板	①	根廻り：水性シリコンフッ素系浸透性吸水防止塗料塗	⑥	庇天端：ポリマーセメント系塗膜防水材塗
D	手摺	E	床下換気口	F	換気ガラリ	②	外壁：防水形複層塗材E	⑦	バルコニー床：ポリマーセメント系塗膜防水材塗(ノンスリップ仕様)
BS	バラボラアンテナ 2	✕	クーラースリーブキャップ 破損 5			③	バラベツ見付・バルコニー見付・庇見付：防水形複層塗材E	⑧	バルコニー揚裏：外装薄塗材Si
《備考》 ※ 上記以外は仕上表による。 ※ 打掘目地部：全てシーリング打替再充填（開口部廻り共） ※ 壁種VP75：DP塗替・通気管VP100：DP塗替・既存支持金物：DP塗替、バンドのみSUS304取替						④	バラベツ天端：ウレタン系塗膜防水材塗(X-2)	⑨	バルコニー天端笠木：ポリマーセメント系塗膜防水材塗(ノンスリップ仕様)
						⑤	庇揚裏、バラベツ揚裏：外装薄塗材Si	⑩	面台：ポリマーセメント系塗膜防水材塗



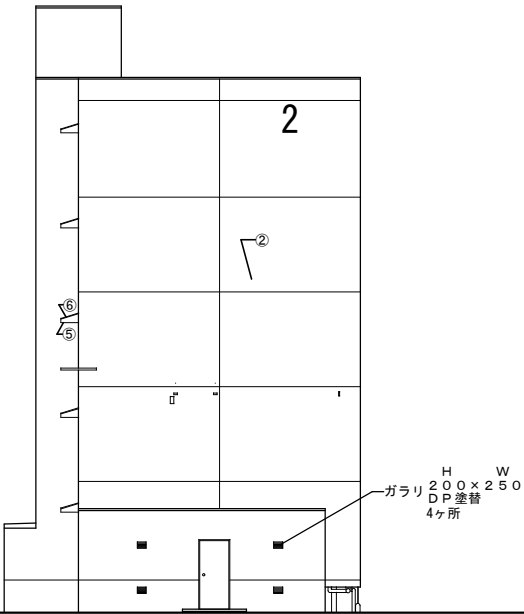
南東側立面図 S=1:150
※エアコン室外機は1戸に2箇所あるものとする



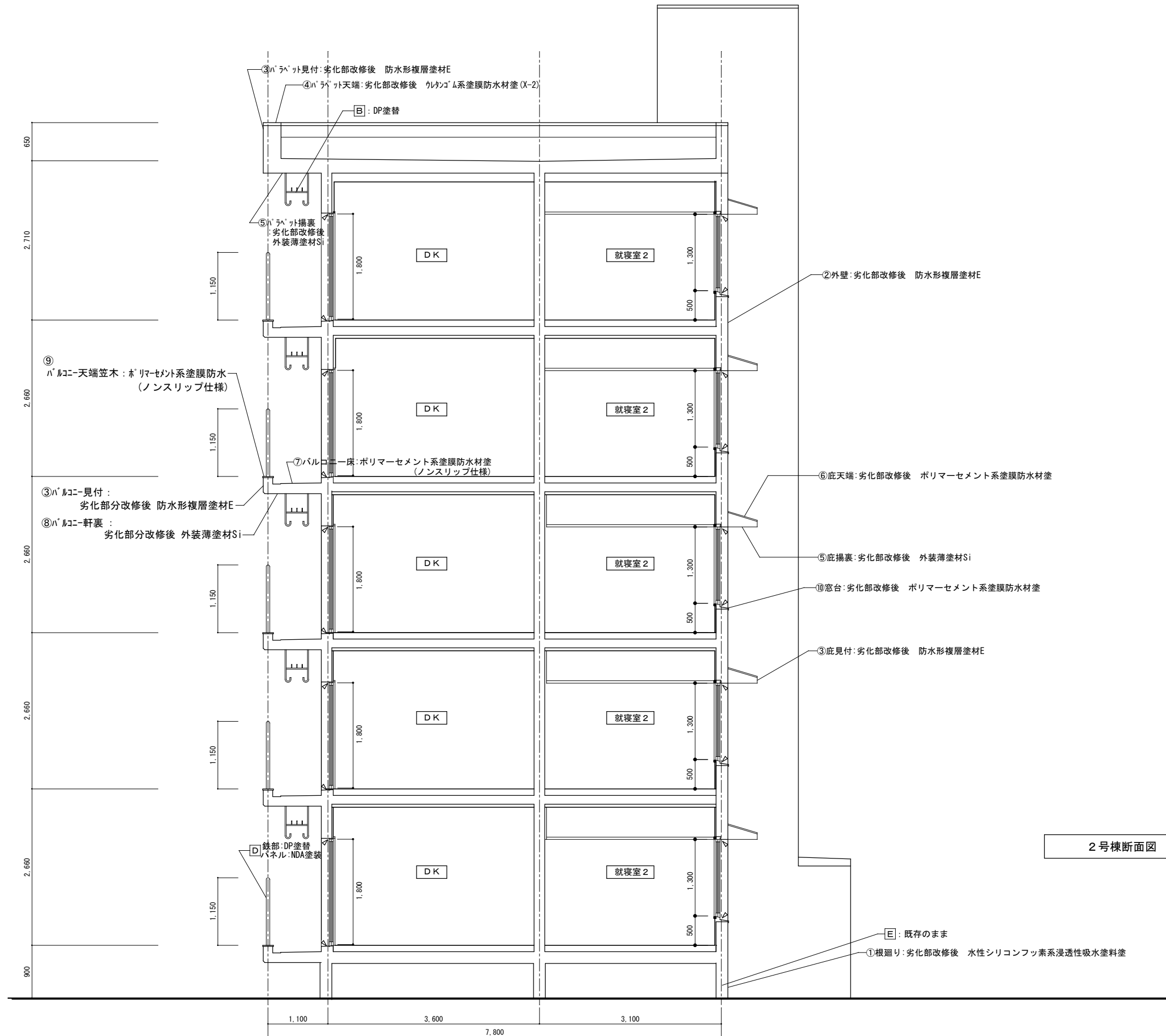
北東側立面図 S=1:150



北西側立面図 S=1:150

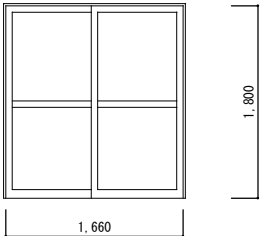
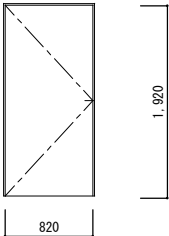
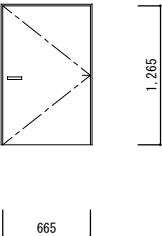
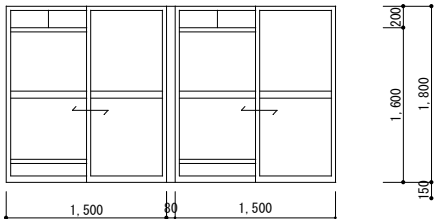
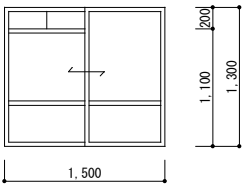
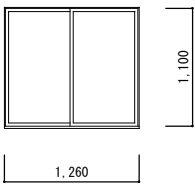
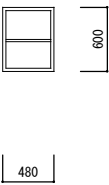
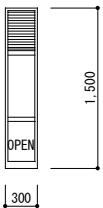


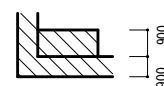
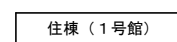
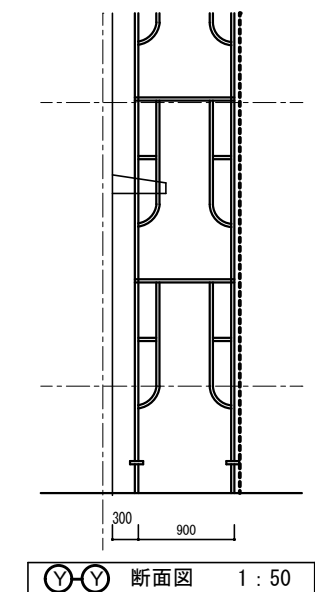
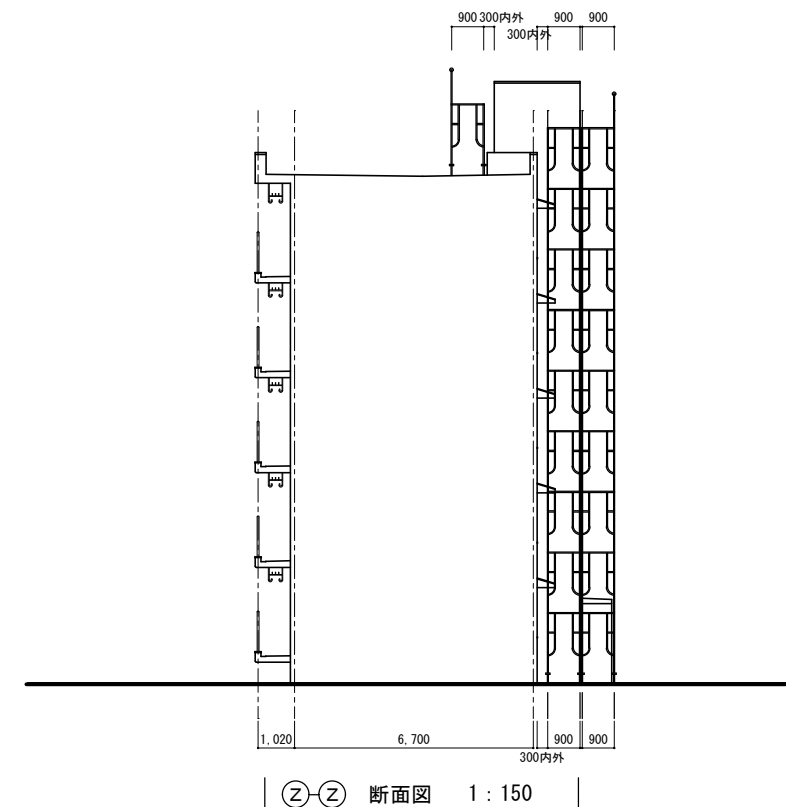
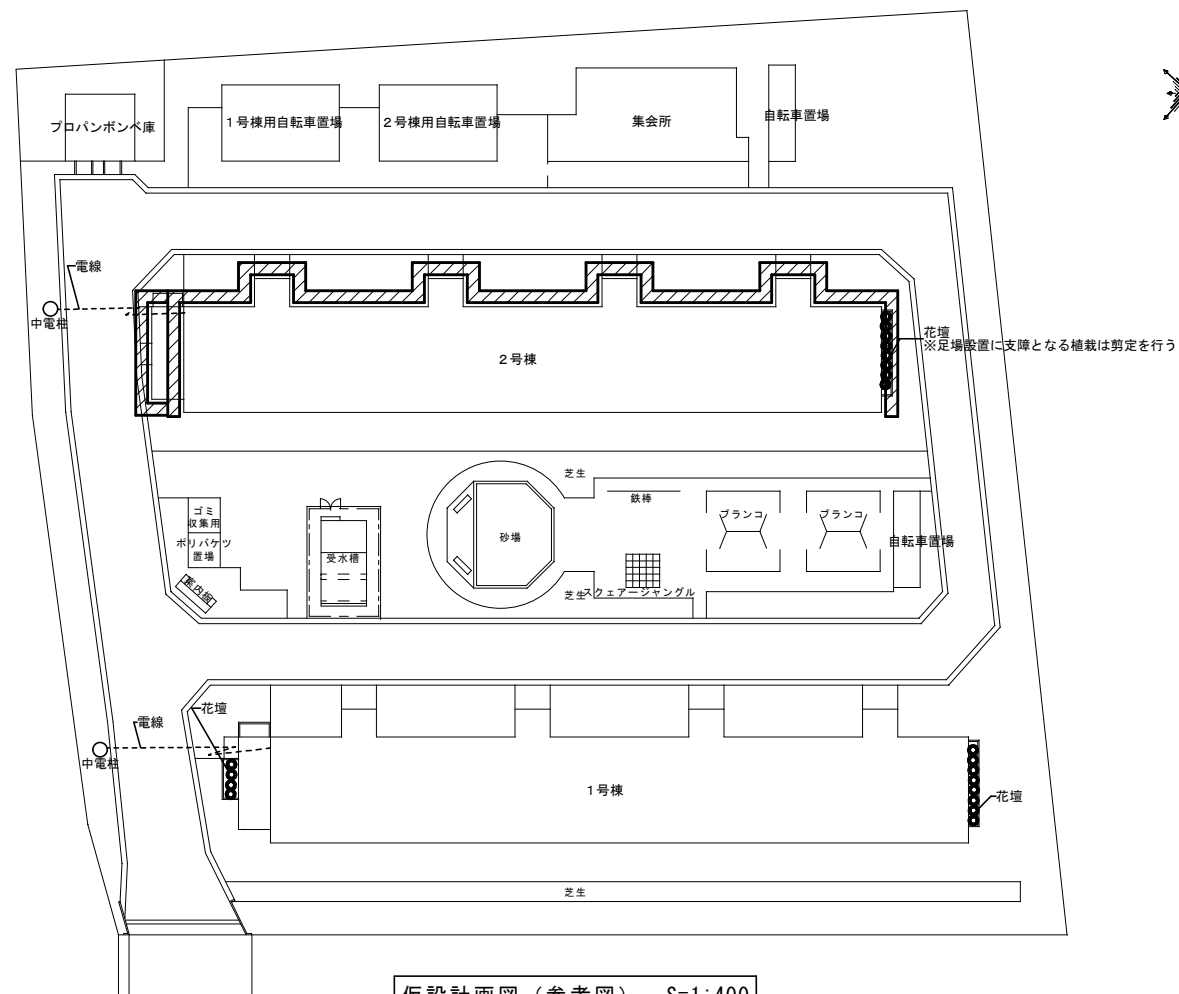
南西側立面図 S=1:150



2号棟断面図 S=1/150

[illegible]

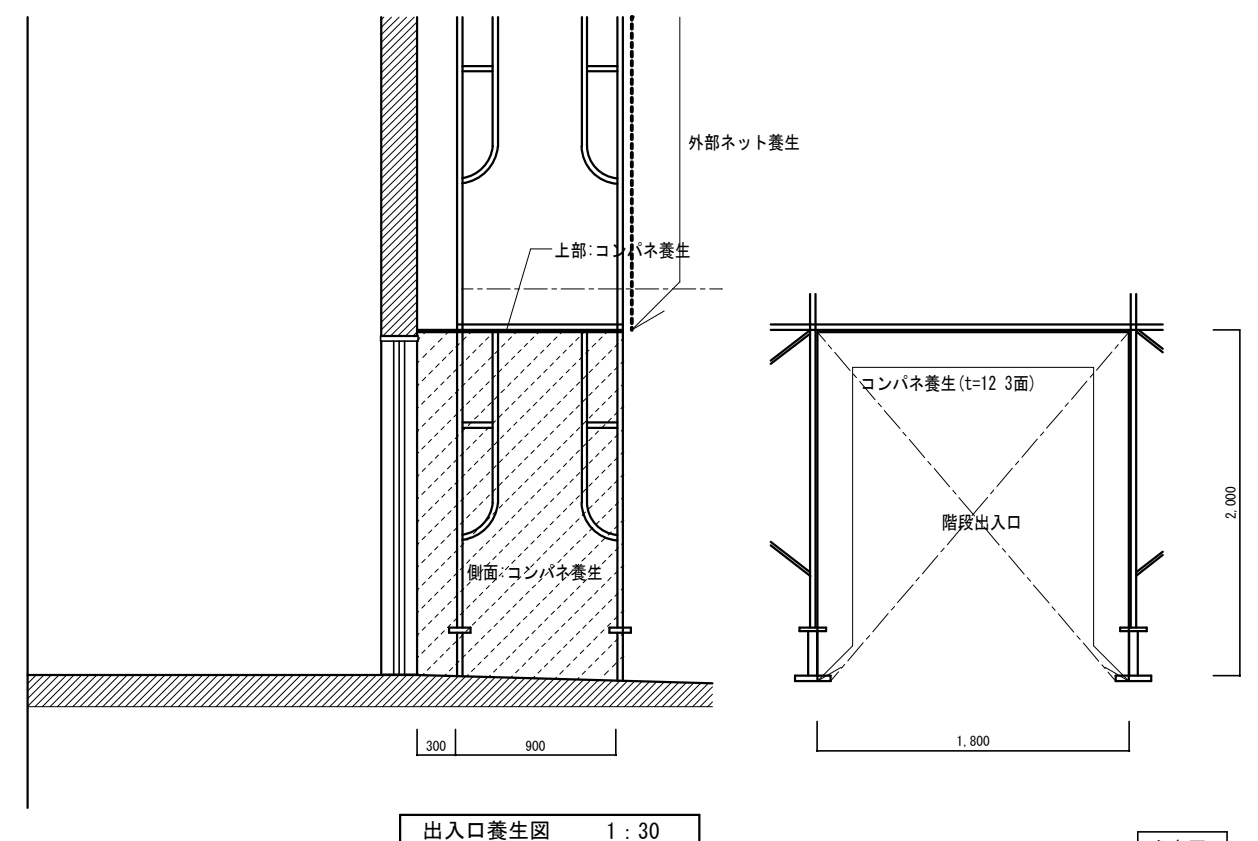
符号 数量	AD 1 4	SD 1	SD 2 1		
形状寸法					
形式見込	7mm製引違戸	鋼製片開扉	鋼製片開扉		
使用場所	玄関	倉庫	階段室（屋上）		
仕上材料					
付属金物					
備考	・ 外部面サッシクリーニング（ガラス・サッシ枠共） ・ 建具廻りシーリング打替再充填（MS・2 10×10）	・ 下地調整（RB種）の上DP塗替（両面枠共、裏面結露防止シート面は除く）	・ 下地調整（RB種）の上DP塗替（両面枠共） ・ ドアアクセント取替		
符号 数量	AWD 1 4 0				
形状寸法					
形式見込	7mm製引違戸				
使用場所	就寝室1・DK				
仕上材料					
付属金物					
備考	・ 外部面サッシクリーニング（ガラス・サッシ枠共） ・ 建具廻りシーリング打替再充填（MS・2 10×10）				
符号 数量	AW 1 4 0	AW 2 1 6	AW 3 4 0	AW 4 4 0	
形状寸法					
形式見込	7mm製引違窓	7mm製引違窓	7mm製引違窓	7mm製嵌め殺し（ガラス内部倒し）	
使用場所	就寝室2	階段室	便所	浴室	
仕上材料					
付属金物					
備考	・ 外部面サッシクリーニング（ガラス・サッシ枠共） ・ 建具廻りシーリング打替再充填（MS・2 10×10）	・ 外部面サッシクリーニング（ガラス・サッシ枠共） ・ 建具廻りシーリング打替再充填（MS・2 10×10）	・ 外部面サッシクリーニング（ガラス・サッシ枠共） ・ 建具廻りシーリング打替再充填（MS・2 10×10）	・ 外部面サッシクリーニング（ガラス・サッシ枠共） ・ 建具廻りシーリング打替再充填（MS・2 10×10）	



手摺先行枠組足場 (W900) + 垂直養生 (メッシュ)
手摺先行枠組足場 (W900) + 垂直養生 (メッシュ)

手摺先行枠組足場 (W900) + 垂直養生 (メッシュ)

※屋上塔屋塗替えのため、枠組足場W=900組 養生ネット張り



参考図